

第 64 号

令和 8 年 11 月 1 日 発行

旬 重

出雲大社北島國造館

出雲教

HP



0853-53-2525

出雲市大社町杵築東194

「大社龍蛇神」 図

(島根県立古代出雲歴史博物館蔵)



画賛には、

「毎年神在月御神事るとき龍宮より出雲のうら五十田狭の小汀にあか(が)りたまひ水火風難を除させたまふ」とあります。

出雲地方では、旧暦の十月を「神無月」ではなく、「神在月」と呼ぶ習わしがあります。この事は、近頃かなり広く知られるようになってきました。「神在月」には全国の神々が出雲に集まり、縁結びについて神議り(会議)をすると言われていますが、この伝承は、平安時代末期の歌学書『奥義抄』をはじめ、様々な文献に残されてきました。「神有月(神在月)」という表記は、室町時代の国語辞典である『下学集』に初めて見られます。「神在月」には、出雲へ集う神々を先導すると伝えられている龍蛇(海蛇)をお祀りし、水火風難消除を祈念する習慣があります。

「ドリーマー」

出雲國造

北島 建孝
きたじま たけのり

秋から冬にかけての季節が好きだ。周囲は次第に色が無くなり始め、色づいていた葉も散り急ぎ、名残の柿が垂れ込めた灰色の雲をバックに浮かんでいる。突然の雷鳴の後に落ちてくる霰、炬燵の中の炭団の匂い、夕餉の支度の匂い、思い出すのは何故か幼少の頃のことが多い。家の中の空気は冷たかったはずだ。風呂上がりに急いで布団に潜り込んで、理由もないのに姉や妹とクスクス笑い合っていた。家族は未だ眠りの中にいる早朝、目を覚まし不浄場に立った。その時いつもより空気が温かくとも静かだと感じた。障子を開け薄い窓ガラス越しに外を見ると雪が積もっている。急に寒さを覚え、用を足すと慌てて布団に戻る。夜着の袖に手を入れ隣で寝ている母の手に触れるととても安心した。いつもいつも穏やかな家庭であったとは言えないが、でも寒さより温もりを多く感じることでできる家庭であった。

以前、ある会合で知り合った人が訪ねてきた。家庭の大切さ等を話す人で価値観が

近い人だと思っていた。その人が実は或る宗教団体の関係者で、その団体は先ごろ解散命令を出された団体であった。お会いした時はそのことを隠しておられたのだ。その人は「自分たちは決して反社会的な団体ではなく、損害を受けた人とも和解が成立している。怪しい団体では絶対に無い」と力説された。しかし、私は「どんな宗教団体であれ、幸せになりたいと思って入信しているのに、本人や家族、周囲の人達が幸せよりも不幸を感じるようなものは、いくら立派なことを云ってもそれでは駄目ではないか」と私見を述べると、黙られそして帰っていかれた。

人間はいつも無い物ねだりだ。自分に無い物、足りない物、手に入りにくい物、お金であったり、名声であったり、健康であったりと人間の欲望は上限が無く、誰しもがいつも何かを求めている。古代中国の老子の言葉に由来する「足るを知る」ことこそが豊かな人生を生きる極意であるとは思いますが、これはとても難しい。似たような言葉に、中根東里（江戸中期の儒学者）の「水飲んで楽しむ者あり、錦を着て憂ふる者あり」という言葉もある。

私は不足を感じ、追い求めることは人間である以上仕方ない、というより当たり前だと思っている。不足を感じるからこそ工夫も生まれ、便利な社会が生まれる。しかしどうせ求めるのなら欲にかられるのでは

なく、楽しく喜びの気持ちを持って、人の為になることを追い求めていきたいものだ。そうすれば、きつと充実した豊かな人生になるに違いない。周りの人達と温かく過ごせる日々もきつと増えると思う。

いつまた何処かで新しい戦争が起きるか分からない時代に、そんなことを考えたりしている。

我ながら、ドリーマーだと思う。

次第に寒さが募ります。皆様、お身体を大切にしてお過ごしください。

「祝 豊暉孝様 紐落」

去る令和五年三月にご誕生になられた、嗣子・大孝様ひろのりのご次男・豊暉孝様とよきのりが、数え年四歳紐落としのお祝の歳を迎えられ、日を早めてご参拝になりました。当日はご遠方にお暮らしの若姫君様方の御祖母様もご参列なされ、ご一家お揃いで豊暉孝様のご成長をお喜びになりました。

豊暉孝様のお健やかなご成長とともに、國造家の益々のご繁栄を祈念申し上げます。



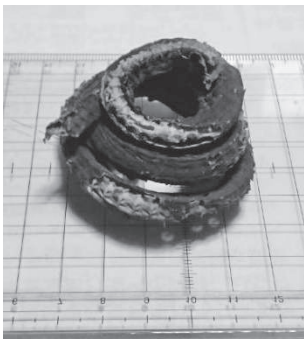
「出雲の龍蛇信仰の展開」

総合研究大学院大学 研究生 向山 貴子

出雲大社は、『古事記』や『日本書紀』など神話時代から続く古社であるが、出雲においては十月「神無月」を全国から神々が集う「神在月」と呼ぶのは、古代、平安時代からである。さらに中世には、海浜に漂着する海蛇が全国の神々を出雲に導く「龍蛇神」として信仰され、「神在祭」ではこの龍蛇の祭祀を執り行うようになった。

戦国時代、尼子の家臣である河本大八記『雲陽軍実記』天正八年（一五八〇）には、大社では神在月に海蛇が波上より現れ、捕獲後すぐに社殿に奉ったと記されている。

龍蛇となる海蛇は、猛毒であるセグロウミヘビが多く、六角形の鱗が特徴である。



【写真1】出雲大社から受けた龍蛇様
出雲市平田 N家（個人）
高さ約4 cm ×横約5 cm

『出雲國造等勘文案』中の「大社年中行事」延宝七年（一六七九）によれば、大社の神紋は六角形の亀甲紋であることから、この海蛇の鱗を神紋と認識し、龍蛇である海蛇と大社との関係の深さを強調した。

江戸時代には、庶民らにより龍神講や龍蛇神講などの講が組織され、家運長栄、火難・水難除け、安産、縁結び、諸願成就などの御利益が示され、龍蛇の掛軸や神札が配られた。

さらに、大都市である大阪に龍蛇を持運び出開帳を行い、龍蛇のご利益が説かれ、参拝者に神札が配られた。このように講や出開帳などから、出雲の外にも信仰は広がったのである。

神在祭では毎年、海浜に漂着した海蛇を龍蛇として奉り、その後、寄進者に希望する者がいれば龍蛇をお分かちした。

平成の中頃から、温暖化等の影響によって海蛇が上がらなくなったが、現在では、大切に保管してきた龍蛇を祀り、神在祭は継承されている。



【写真2】龍蛇様のお宮
出雲市平田 N家（個人）

「神在月特別祈禱・限定授与品」

出雲教では旧暦の十月・神在月にあたるこの時期に、普段國造家にてお祀りされている龍蛇神を御神殿にお祀りし、縁結びと水災・火災守護を祈念する、神在月特別祈禱を執り行っています。ご祈禱をお受けになられた方には特別な御神札と御守をお授けいたします。申し込みは祈禱受付所にて受け付けます。

また、予てより授与品として、神在月限定御守・御朱印・御朱印帳をお授けしております。御守・御朱印帳は龍蛇神を思わせる黒色を基調とし、御朱印には龍蛇神の御姿が記されています。さらに今年は御朱印帳を入れる袋を新たに作製いたしました。美しい幻想的なデザインに仕上がっています。

ご参拝の折にはぜひ龍蛇神へも参拝され、大神様のおかげをいただかれています。なお、授与品には数に限りがあります。ことをご承知おきください。

令和八年

● 神在月特別祈禱

十一月九日～十二月八日

● 神在月限定授与品

十月十日～十二月八日

※御朱印帳袋は十月下旬より



神在月限定授与品

中央上：限定御守

右：御朱印帳

中央下：限定御朱印

左：御朱印帳袋



神在月特別祈禱授与品

(御神札・御守・御洗米)

「支え合いと感謝の心」

安食 治外

(出雲市在住 出雲教祖霊社教徒)



春秋の祖霊社例祭では、國造さまからその時々々の世情を踏まえたお話しをしていただきます。頻発する

自然災害や国際情勢への不安、地域や暮らしの変化に伴う何かしらの戸惑いなど、私たちの胸にあるさまざまな思いを受け止めながら、祖霊をお祀りすることの意義と合わせて語られるご自身のお考えは、祖霊社の静かな空気の中で私の心に届きます。

私自身、日々さまざまな情報に触れる中で、こうした世情の不安定さを強く感じています。自然の猛威、国際社会の分断、生活の不安定さは、自らがその当事者ではなくても、気持ちが沈みがちになります。

五年前の水害で我が家が床上浸水の被災をした際には、多くの地域の方々や友人、職場の同僚が、気持ちのケアも含め復旧作業を惜しみなく支えてくださいました。加えて全国からも温かい励ましをいただきました。先の見えない不安や戸惑いの中で寄せられた周りの方々のお気持ちや支援は深く心に染み、支え合うことの大切さを実感しました。

こうした時代だからこそ、人と人との絆や地域のつながり、互いを思いやり支え合う心の大切さを強く感じます。人は一人では生きられず、人とのつながりの中で前に進めるという実感は、いつも祖霊社例祭で國造さまがお話になる「祖先への感謝」と重なります。

祖先に感謝し、和を大切にする心をもって日々を歩むことが、子々孫々にわたってかくりよしめすおのみ幽冥主宰大神さまやご先祖さまが私たちを守り導いてくださることにつながる。この思いが、僭越ながら今の私の信仰の一つとなっています。

出雲教祭典予定

●令和八年

十一月 十五日 (日) 紐落式日
十一月 二十三日 (月) 午前・御種祭
午後・龍神講祭

十二月 十五日 (火) 謝恩祭
十二月 三十一日 (木) 大祓式・大晦日祭

●令和九年

一月 一日 (金) 歳旦祭
一月 十一日 (月) かねやまんど祭
二月 三日 (水) 節分祭
二月 十七日 (水) 祈年祭・教祖祭
三月 十六日 (火) 旧初午祭
三月 二十一日 (日) 春季祖霊社大祭
五月 十四日 (金) 例祭前日祭
五月 十五日 (土) 出雲教例祭
六月 三十日 (水) 夏越の大祓式

「令和九年 かねやまんど祭」

令和九年のかねやまんど祭は、十一月・成人の日の午前九時から出雲教御神殿で祭典を斎行したのち、午前十時より、かねやま広場駐車場にて行います。神聖な火鑽で起こした御神火を点火してお焚き上げをします。

古い御札、御守、破魔矢、注連縄などは、前日の一月十日までに受付所へお持ちください。注連縄についている橙、ビニール、鈴は外してお持ちください。

尚、とんど祭が終わりますと、注連縄のお焚き上げをお受けできません。また、人形や陶器類など、燃やせないものはお焚き上げできませんのでご了承ください。

